

平成23年度 事業報告

私たちが暮らす社会には、都市化や少子高齢化、価値観の多様化、経済情勢の停滞などにより、複合的な課題を抱えている人が少なくない。福祉へのニーズが高まる中、公的サービスだけでは全てを解決することはできず、より柔軟な福祉サービスの構築が求められている。また、東日本大震災を契機として、地域住民による支え合いの仕組みづくりの重要性が再認識されている。

このような状況の中で、本会では、生活課題を抱える個人に寄り添い、地域住民と連携して解決に向けて取り組む「地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業」を実施し、住民のニーズ把握や地域組織の相談支援を行ったほか、住み慣れた地域で安心して生活できるよう高齢者の見守り支援や死後事務についての預託金契約を行う「ずーっとあんしん安らか事業」にも取り組んだ。

また、東日本大震災の被災地支援として、福島県への職員派遣を行った。

平成23年度は、以下の方針をもとに各種事業を実施した。

【重点項目】

- 1 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業
- 2 あんしんサービス創造モデル事業
- 3 課題別ボランティア養成講座
- 4 出前ボランティアセンター事業
- 5 ずーっとあんしん安らか事業
- 6 東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）への支援
- 7 第4期地域福祉活動計画の策定（地域福祉活動計画推進事業）

【主な事業】

- 1 地域の支え合い活動の充実を図ります
- 2 多様なボランティア活動を推進します
- 3 その人らしい暮らしを支えます
- 4 福祉の心を育みます
- 5 市民福祉プラザ事業を推進します
- 6 市・区社協の基盤を強化します
- 7 その他の事業
- 8 会務の運営

【重点項目】

1 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業 (11,366千円)

福岡市からの委託事業（平成23～25年度）として、8月より4人の専任職員を、福岡市が選定した、団地、戸建て等居住形態の異なる市内6校区（東：城浜、南：東若久・東花畑、早良：大原、西：西陵、周船寺校区）のモデル校区に配置し、地域の特性に合わせた高齢者等の見守りの仕組みづくりに向けて、校区活動者等の支援を行った。また、対応が困難な個別ケースへ活動者と一緒に関わるなど、個別支援にも取り組んだ。

校区名	平成23年度の成果
城浜 (公営団地)	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長・民生委員・老人クラブ等の活動者が一堂に会し、福祉座談会を月1回開催。高齢者等を取りまく課題の共有や今後予定している新たな見守り活動の立ち上げに向けて話し合いを続けている。
東若久 (戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りに関わっている自治会長・民生委員・校区社協・シニアクラブ等の活動者が集まり2回のワークショップを開催。町単位で見守りを進めていくという意識を高めることにつながった。 ・町ごとに対象者や見守り状況を地図上に表示するマップづくりを実施（全町達成していないため平成24年度も継続実施）。
東花畑 (戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援に関わっている団体等が集まり、2回のワークショップを開催。高齢者等の支援や見守り活動が校区の重点目標であるという認識が深まった。 ・校区の高齢者等支援の仕組みづくりを検討するため、各団体の代表者が集まり毎月「地域福祉“5愛”推進会」を開催している。
大原 (UR団地・戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> ・団地内の見守りを進めるため、ふれあいサロンの利用者・ボランティアを増やす支援をし、利用者・ボランティアともに増えた。 ・災害時避難支援のための平常時の見守りについて話し合う場を設け、見守りの一環として避難訓練を実施できるよう協議を続けている。
西陵 (戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度から校区で開催されている高齢者対策会議を活用し、「見守り活動を基本とした元気な高齢者づくり」という校区目標を決め、具体的な活動について協議を続けている。
周船寺 (戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> ・校区社協の担い手不足解消のために、地域の方と協力しボランティア講座を企画した（平成24年度実施予定）。 ・校区社協（ふれあいネットワーク）、民生委員と校区内の配達業者（西日本新聞）が、連携して見守りを行うことが出来るように協議の場を設け、実施に向けて話し合いを行った（平成24年4月から実施）。



福祉座談会の様子

2 あんしんサービス創造モデル事業

概ね小学校区域を対象とし、公的サービスでは対応できない福祉ニーズに対し、シニア世代等を活動者とした地域住民の参加によるサービスを提供する事業へ、初期費用を助成することとしており、働きかけを行ったが助成には至らなかった。現在引き続き働きかけを行っている。

3 課題別ボランティア養成講座

(34千円)

(1) 高齢者外出ボランティア養成講座

加齢により外出が困難となった高齢者の散歩や買い物、展覧会など生きがいにつながる外出を支援するボランティアを養成した。

〔期 間〕 平成23年7月16日(土)～7月30日(土) (全3回)

〔会 場〕 市民福祉プラザ

〔講 師〕 脇山 千城 氏 (ボランティア「よか会」代表)
松野 浩二 氏 (理学療法士)

〔受講者数〕 27人

※講座修了後、受講者20名によるボランティアグループ「ひまわり」が発足し、3ヶ月に1回の定例会の開催や、外出介助の活動を始めている。

(2) バリアフリー映画支援ボランティア養成講座

(255千円)

目や耳の不自由な人に多くの映画やDVDを楽しんでいただくために、映画などのナレーションや字幕を作成するボランティアを養成した。

〔日 程〕 平成24年1月21日(土)～3月4日(日) (全4回)

〔会 場〕 市民福祉プラザ

〔講 師〕 川崎 寛子 氏 (ボランティア連絡協議会)
島村 幸広 氏 (舞台音響・スタジオエンジニア)
喜久田 由利子 氏 (関西音声リポート代表)

〔受講者数〕 16人

※講座修了後、受講者全員で月1回の自主勉強会が開催され、ボランティアグループ「エイムING」が発足、活動の準備を進めている。

4 出前ボランティアセンター事業

(1千円)

地域のイベント等に出向き、来場者にボランティア活動についての相談や広報を行った。

行事名	実施状況
ハートフルフェスタ2011	〔期 間〕 平成23年10月16日(日) 〔会 場〕 福岡市役所ふれあい広場 〔来場者〕 117人
愛まつり	〔期 間〕 平成23年11月3日(木・祝) 〔会 場〕 今宿駅周辺 〔来場者〕 31人
ふれあいフェスタ千代2011	〔期 間〕 平成23年11月13日(日) 〔会 場〕 千代小学校 〔来場者〕 100人
ふれあい広場	〔期 間〕 平成23年11月23日(水・祝) 〔会 場〕 九州産業大学 〔来場者〕 129人

5 ずーっとあんしん安らか事業

(248千円)

葬儀・家財処分サービスを行うための預託金を預かり、定期的な見守り及び入退院時の支援などを実施した。(6月から事業開始)

〔相談状況〕 51件

〔契約件数〕 11件(うち、公正証書遺言書作成件数 3件)

〔事業の周知〕

・パンフレットの作成 8,000部

(配布先:区保健福祉センター、区社会福祉協議会、いきいきセンターふくおか 他)

・市政だより(6/1号)、市広報テレビ(9/14)、その他新聞記事への掲載。

・民生委員・児童委員、福岡市居住支援協議会等へ説明。

6 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)への支援

(4,272千円)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際し、市民からの問い合わせ等に応じるとともに、被災地(福島県)へ職員を派遣し、現地での災害ボランティアセンターの業務にあたった。

(1) 職員の派遣について

全国社会福祉協議会からの支援要請を受け、本会より福島県に職員を2名ずつ14班派遣した。

① 目的

福島県内に設置される災害ボランティアセンターの運営支援等

② 派遣先

i) 福島県田村市災害ボランティアセンター

〔派遣期間〕 平成23年3月29日(火)～4月20日(水)

〔派遣職員数〕 4チーム8名

〔派遣職員の役割〕

避難所の災害ボランティアセンター立ち上げ及び運営、継続可能な体制づくり

ii) 福島県いわき市災害ボランティアセンター

〔派遣期間〕 平成23年4月22日(金)～9月2日(金)

〔派遣職員数〕 10チーム20名

〔派遣職員の役割〕

総合受付、避難所見守り、ボランティア受付、ニーズ把握、マッチング、サテライト(小名浜、久乃浜)派遣、オリエンテーション等

(2) 福岡市民ボランティアについて

① 被災地での活動情報の提供

全国社会福祉協議会ホームページより岩手・宮城・福島三県の災害救援ボランティアセンター設置状況を手し、ボランティアセンター掲示板(毎月更新)にてお知らせしたほか、ボランティアセンターだより「風」(隔月発行)に被災地での活動状況を掲載した。(全5回)

② 被災地支援災害ボランティアバス(福岡市災害ボランティア)実施に伴う支援

福岡市で募集した東北地方を支援するボランティアに対する説明会を福岡市と共に実施し、ボランティア活動保険の説明・加入手続き等を行った。

	日時	場所	参加者	
			期	人数
第1回	平成23年4月26日(火)	市民福祉 プラザ	第1期	37人
			第2期	36人
第2回	" 6月 3日(金)	市役所	第3期	36人
			第4期	37人
			第5期	35人
第3回	" 7月12日(火)	"	第6期	32人
			第7期	37人
第4回	" 9月22日(木)	"	第8期	41人
合計				291人

(3) 福岡市へ避難された方について

① Fukuoka mama's Cafe「ママズカフェ」の実施

関東や東北から子どもを連れて福岡に避難してきた母親やその家族が出会える交流会(Fukuoka mama's Cafe)を開催した。(東日本大震災被災者支援ふくおか市民ネットワークと共催)

	日時	参加者数	会場
第1回	平成23年8月13日(土)	78人(32世帯)	市民福祉 プラザ
第2回	" 8月18日(木)	33人(10世帯)	
第3回	" 9月24日(土)	89人(33世帯)	
第4回	" 10月17日(月)	64人(28世帯)	
第5回	" 11月23日(水・祝)	54人(22世帯)	
第6回	" 12月 5日(月)	39人(18世帯)	
第7回	平成24年1月29日(日)	43人(20世帯)	
第8回	" 2月20日(月)	39人(17世帯)	
第9回	" 3月20日(火・祝)	60人(28世帯)	

② 楽しい輪「寄り合いCafe」の実施

福岡で避難生活をしている人たちが気軽に参加できる「寄り合いの場」を提供し、交流の場を通して支援を行った。(東日本大震災被災者支援ふくおか市民ネットワーク、宮城・岩手・福島県人会と共催)

日時 (場所)	主な内容	参加者 (被災者)
平成23年7月24日(日) (市民福祉プラザ)	<ul style="list-style-type: none"> 生活等相談(弁護士、産業カウンセラー) 子育てサロン(ママズカフェに移行) 母親・子どもたちとボランティアの交流 宮城・岩手・福島県人会による交流会 	31人

③ 生活福祉資金の貸付

県社協が行う災害救援緊急小口資金の窓口として相談及び融資の手続きを行った。(8名、90万円)

7 第4期地域福祉活動計画の策定（地域福祉活動計画推進事業（平成22年度～））

（818千円）

市民参加による支えあいにより、安心して暮らせる福祉のまちづくりを実現するための行動計画「第4期地域福祉活動計画」に関する諸会議を実施し、策定した。

策定にあたっては福祉関係団体、行政機関、学識経験者などで構成された「計画策定委員会」「策定委員会小委員会」にて協議を行い、「福岡市保健福祉総合計画（地域福祉計画）」ともできる限り連携を図りながら進めた。

また、本会の理事会・評議員会等での中間報告や、校区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、自治協議会等への説明や意見聴取を行ったほか、市民意見募集の意見を踏まえ計画の内容に反映させた。

日程	内 容
平成23年 4月28日(木)	第5回小委員会 ○第4期地域福祉活動計画実施事業（素案）の検討について
〃 6月17日(金)	第6回小委員会 ○計画書の構成（案） ○第4期地域福祉活動計画の重点とする取り組みについて
〃 7月26日(火)	○地域福祉部会での中間報告及び意見聴取
〃 8月12日(金)	第7回小委員会 ○計画（案）
〃 8月30日(火)	第167回理事会、第164回評議員会 ○第4期地域福祉活動計画の中間報告
〃 9月 5日(月)	○民生・児童委員部会での中間報告及び意見聴取
〃 9～10月	○各区校区社会福祉協議会会長会での中間報告及び意見聴取
〃 10月20日(木)	○施設部会での中間報告及び意見聴取
〃 10～11月	○各区自治協議会会長会・自治組織会長会議での中間報告及び意見聴取 ○各区民生委員・児童委員協議会での中間報告及び意見聴取
〃 11月	○関係機関・事業所等との懇談会での意見聴取
〃 12月26日(月)	第8回小委員会 ○計画（案）
平成24年 2月 3日(金)	第3回策定委員会 ○計画（案）
〃 2月	○第4期地域福祉活動計画に関する市民意見募集
〃 3月29日(木)	第168回理事会 ○第4期地域福祉活動計画に同意 第165回評議員会 ○第4期地域福祉活動計画を可決

【主な事業】

1 地域の支え合い活動の充実を図ります

住み慣れた地域で、誰もが健やかに安心して暮らせる「ともに支えあう福祉のまち」をめざし、校区社会福祉協議会を中心とした地域福祉活動を推進した。また、校区社会福祉協議会や民生委員・児童委員など、地域の見守り活動を行う組織への相談・支援を行う地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業を実施した。

(1) 校区社協とともに進める福祉のまちづくり

(58,739千円)

市民の福祉ニーズに対応した地域福祉・在宅福祉活動を一層促進するため、その推進役である校区社会福祉協議会の充実・強化に向け支援した。

① 校区社協会長研修会

第4期地域福祉活動計画について、各区校区社協会長会議にて説明を行って、意見を聴取し、計画の内容に反映させた。

② 校区社協広報活動への支援

校区社協が住民の福祉に対する理解と関心を高めることを目的に行う広報紙発行事業を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

〔助成額〕 5,139,219円

区	助成校区数
東	24
博多	14
中央	9
南	24
城南	11
早良	24
西	21
合計	127

③ 校区社協への活動支援（共同募金配分事業）

区社会福祉協議会と共働し、校区社協の実情にあった福祉活動づくりの展開ができるよう共同募金配分金を財源とし、事業運営や資金を支援した。

〔助成額〕 53,574,600円

(2) 住民の主体的参加と相互に支え合うまちづくりの推進

(41,638千円)

地域における支えあいの仕組みづくりを進めていくために、ふれあいネットワークや、ふれあいサロン、ふれあいランチ、ふれあいデイサービス、校区広報紙発行等の地域住民による自主的な福祉活動を支援した。

① ふれあいネットワーク活動の拡充

一人暮らしの高齢者など、援助を必要とする人々が地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民や関係機関が連携して、日常的な見守りなどの支援体制づくりに取り組む「ふれあいネットワーク活動」の更なる充実に向け、区社会福祉協議会とともに活

動を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

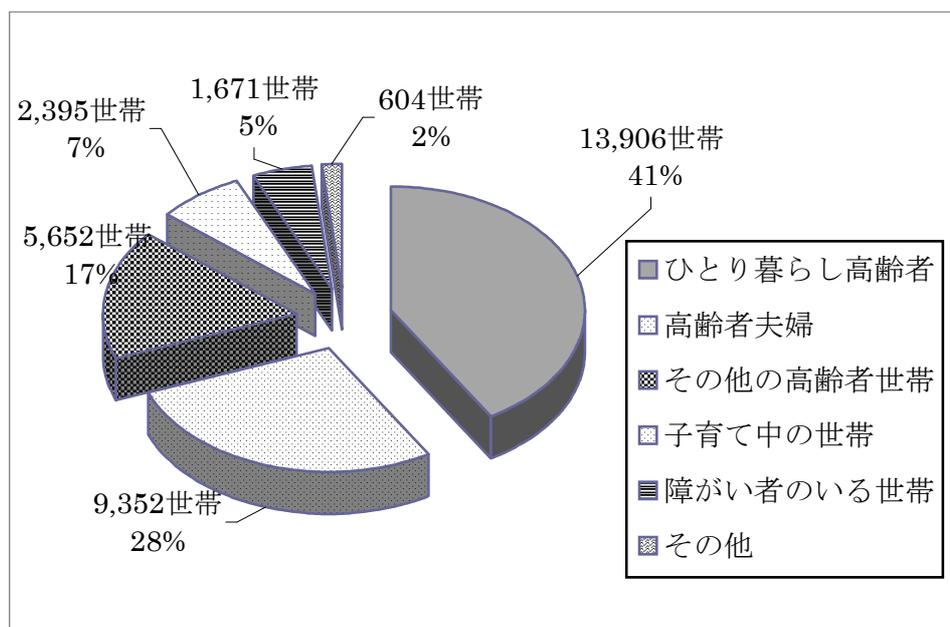
〔助成額〕 16,860,897円

〔活動状況〕

(平成24年3月末現在)

区	校区数	助成校区数	実施自治会数	対象世帯数	ボランティア数
東	27	25	328	5,939	2,086
博多	22	21	306	6,372	1,290
中央	14	12	256	5,909	1,316
南	25	24	282	5,138	1,682
城南	11	11	155	2,307	1,359
早良	24	18	182	3,366	1,194
西	23	17	129	4,549	1,517
合計	146	128	1,638	33,580	10,444

〔ふれあいネットワーク事業対象世帯内訳〕



〔活動内容内訳〕

活動内容		世帯数
安否確認・声かけ・話し相手		30,377
保健福祉サービスの紹介		2,865
生活の支援	ゴミ出し	524
	電球の取り替え	125
	買物代行・薬取り	222
	家事援助(掃除・洗濯・炊事など)	166
	外出援助(通院・買物付添など)	230
	急用時の子どもの送り迎え・預かりなど	33

② ふれあいサロン活動の拡充

一人暮らしや身体機能の低下等により、家に閉じこもりがちな高齢者等の孤独感の解消や介護予防等を目的として、地域のボランティアが公民館や集会所などで、レクリエーションや、仲間づくり・交流・ふれあいの場を広げる「ふれあいサロン活動」の拡充を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

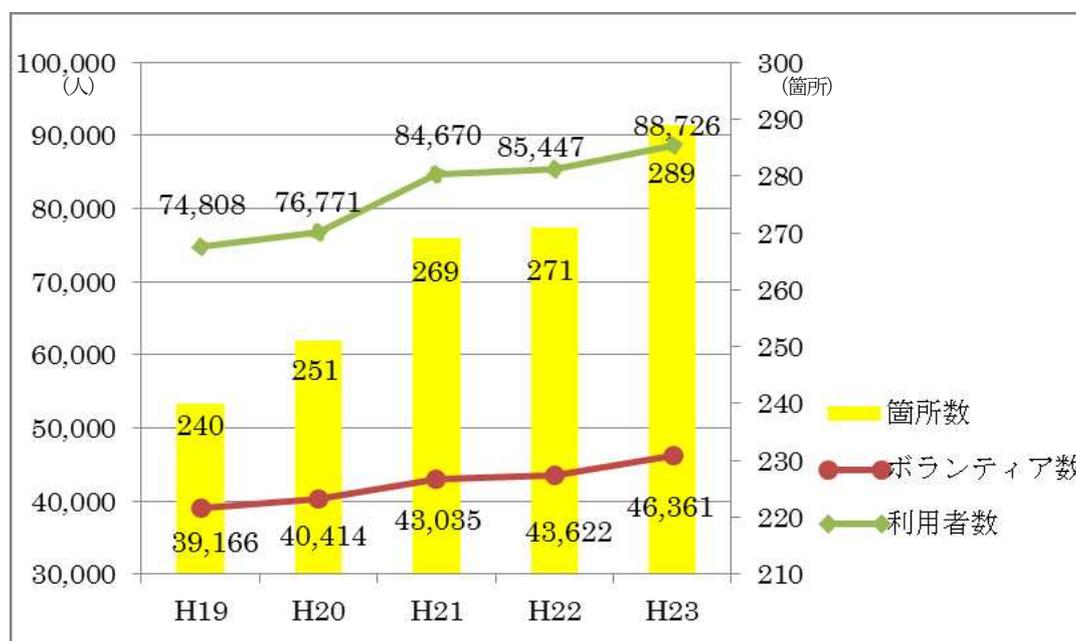
〔助成額〕 16,447,982円

〔活動状況〕

(平成24年3月末現在)

区	校区数	助成校区数	箇所数	延べ利用者数	延べボランティア数
東	27	25	66	23,657	11,892
博多	22	20	32	11,458	4,241
中央	14	13	25	5,743	3,636
南	25	21	32	10,130	4,965
城南	11	11	39	9,321	4,722
早良	24	22	45	13,868	9,801
西	23	22	50	14,549	7,104
合計	146	134	289	88,726	46,361

〔ふれあいサロン事業助成箇所数、ボランティア数、利用者数の推移〕



③ ふれあいランチ事業

調理をすることが困難な高齢者、障がい者等へ食事を届け、利用者の健康増進を図るとともに、安否確認・各種相談等を行い、地域とのふれあいを深める活動を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

〔助成額〕 1,334,436円

〔活動状況〕

(平成24年3月末現在)

区	助成校区数	校区名	利用者数	ボランティア数	延べ配食数
東	1	美和台	10	20	899
博多	1	那珂	8	7	658
南	2	東花畑、若久	31	37	2,292
早良	3	百道、原、野芥	30	44	1,813
合計	7校区		79	108	5,662

④ ふれあいデイサービス事業

一人暮らしや身体機能の低下等により、家に閉じこもりがちな高齢者を対象に、公民館や集会所等で地域のボランティアが定期的に行う介護予防、生きがいつくり、社会参加の促進を図る活動を支援した。

なお、福岡市補助金を財源とし、活動費を助成した。

〔助成額〕 2,000,000円

〔助成状況〕

(平成24年3月末現在)

区	助成校区数	校区名	延べ利用者数	延べボランティア数
南	1	塩原	439	318
早良	2	有住、田村	1,108	934
西	1	壱岐南	1,211	999
合計	4校区		2,758	2,251

⑤ あんしんサービス創造モデル事業(再掲)(P.3)

⑥ 元気高齢者活動支援事業(シニアアシスト城南)

団塊の世代を中心とするシニア世代の技術や知識、経験を活用するため、人材発掘やボランティア活動への斡旋・調整等を行う職員を城南区社協に配置した。シニア世代の活動を地域課題の解決に結びつけるための講座を開催したほか、ホームページや季刊誌、情報誌で活動をPRした。

〔活動希望者登録状況〕 113人

〔ボランティア団体登録状況〕 53団体 1,667人

(内訳) 福祉(28団体)、まちづくり(9団体)、環境(6団体)、健康・医療(1団体)、健全育成(3団体)、文化(2団体)、防災(2団体)、教育(1団体)、災害救援(1団体)

〔校区ボランティア講座〕 4校区、全19回、延べ参加人数527名

〔区ボランティア講座〕 全2回、延べ参加人数35名

〔団体リーダー会議〕 30団体、参加人数32名

(3) 地域で進める子育て支援**(29,066千円)**

① ファミリー・サポート・センターの拡充

子育て家庭が地域の中で孤立することなく、安心して子育てができるよう、地域にお

いて子育てを「応援して欲しい人」「応援したい人」を組織化し、会員制による相互援助活動を広めた。

特に、平成23年度から障がいがあるなど特別な支援が必要な児童の対象年齢を中学生にまで引き上げるとともに、出産のため里帰りしている人の子どもを援助できるようにした。

[会員登録状況]

(平成24年3月末現在)

依頼会員	提供会員	両方会員	計
4,596人	820人	841人	6,257人

[活動内容及び回数]

	活動内容	回数
1	保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	3,789
2	保護者等の買物等外出の場合の援助	1,447
3	保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	1,400
4	子どもの習い事等の場合の援助	1,365
5	保育所、幼稚園の迎え	979
6	その他 ・学童保育の迎え及び帰宅後の預かり ・保育所、幼稚園の送り ・障がい児のサポート 等	5,567
	合計	14,547

[講習会・交流会等の実施]

- (ア) 依頼会員登録講習 (支部：月～金、本部：第3土曜日)
- (イ) 提供・両方会員養成講習会 (5回、受講者延べ915人)
- (ウ) フォローアップ講座 (2回、参加者延べ150人)
- (エ) 会員交流会 (15回、参加者延べ327人)
- (オ) 活動未体験会員のための「あずかりっこ」 (10回、参加者延べ209人)
- (カ) 会員リーダー連絡会の実施 (2回)

② 子育てサロン・サークルの支援

子育てサロン・サークル活動の内容充実や、子育て相談の場を設定することを目的とした、子育てサロン・サークルへの保育士派遣事業の実施について検討を行った。

(4) 民生委員児童委員協議会との連携

(35,363千円)

① 民生委員活動推進事業

(ア) 民生委員協議会助成事業等

地域福祉を共に推進する民生委員・児童委員の活動充実を図るため、民生委員児童委員協議会へ活動費の助成を行った。

(イ) 平成23年度指定都市社協・民児連絡協議会事業

福岡市民生委員児童委員協議会とともに、平成23年度指定都市社協・民児連絡協議会の当番市として会議を開催し、他都市との意見交換・交流を図った。

日 程	平成23年7月13日(水)～14日(木)
場 所	福岡市役所、ヒルトン福岡シーホークホテル
出席者	各指定都市社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会（連盟）から代表者121名（その他来賓5名等）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「地域福祉の動向と民生委員・児童委員活動」 ・前年度処理報告、東日本大震災報告（仙台市） ・主な協議事項 地域包括ケアシステムにおいて社協が担う役割について 社協活動において男女共同参画の視点に立って女性の果たす役割について 災害時への対応について

(5) 共同募金、寄付金等を活用した福祉のまちづくりの推進 (11,430千円)

① 友愛訪問事業

福岡市老人クラブ連合会の友愛訪問事業に対し、補助金を交付した。

② 共同募金配分事業（再掲）（P.7）

③ 奉仕銀行運営事業

本会に対する寄付金や物品を受け入れ、その受け入れた一般寄付金及び福岡市の補助金を財源に、法人格を有しない7団体・施設に2,207,073円を配分し、施設整備及び新規事業の実施を支援した。また、施設等への物品寄贈やイベント招待等を仲介し、福祉活動の振興に努めた。

項 目	件数	金 額	備 考
寄付金	27件	2,564,262円	
物 品	2件	296,000円	車いす
仲介等	42件	—	野球試合招待、定期演奏会招待、掛け布団、ミシン等
合 計	71件	2,860,262円	

(6) その他の社協事業 (27,792千円)

① 区社協事業（区ボランティアセンター事業等）

区ボランティアセンターと共働し、地域住民のボランティア活動への参画を促す講座や研修会の実施、活動相談やコーディネートの充実を図った。

（参考） 2.（1）① ボランティアコーディネーション事業（P.13）

4.（1）③ ボランティア体験事業（P.24）

② 行旅病人一時扶助事業

やむを得ない理由により一時的に困窮の状態にある行旅中の要援護者が、移動等のために必要とする費用の一部を支給し、更生の一助のため、現金と乗車カードを博多区保健福祉センター（博多区保護3課）に預け、必要に応じて要援護者に支給を行った。

項 目	件 数	金 額	備 考
現 金	0件	0円	
乗車カード	55件	55,000円	よかネットカード3枚 オレンジカード52枚

2 多様なボランティア活動を推進します

ボランティア活動への参加促進やボランティア意識の高揚を図るため、広報・啓発活動や相談・紹介など各種事業を実施した。

(1) ボランティア活動相談・調整事業の強化 (3,364千円)

公的なサービスでは対応できない多様な生活課題を抱える人たちを支援するため、ボランティアをはじめ、関係機関への働きかけを行った。

また、ボランティア活動希望者が実際の活動に結び付くよう支援した。

① ボランティアコーディネーション事業

(ア) 個人ボランティア活動相談・登録

㉠活動相談 (合計)	㉡対応状況	相談のみ	マッチング率 (㉡÷㉠)
642	537 (登録394、活動先紹介143)	105	84%

(イ) ボランティア依頼

㉠依頼件数 (合計)	㉡対応件数	延べ対応ボランティア数	マッチング率 (㉡÷㉠)
1,233	1,032	3,217	84%

[依頼内容]

内 容	件数	内 容	件数
託児	69	身体介助	6
施設・団体の行事援助	129	訓練	6
日常生活援助	174	遊び相手	56
技術・学習指導	68	点訳	89
家事援助	24	朗読	25
話し相手	114	散髪	1
外出付き添い	374	その他	98
合 計			1,233

(ウ) 登録ボランティア内訳

	23年度新規	累 計
個人ボランティア数	411人	1,473人
ボランティアグループ数	11団	155団
人数	135人	4,185人
合 計 (人)	546人	5,658人

② 施設・病院等ボランティアコーディネーター研修会

市内の福祉施設・病院においてボランティアの受入体制の整備・充実を図るため、施設・病院等のボランティア担当者を対象とした研修会を実施した。

〔実施日〕 平成24年2月22日(水)
〔会場〕 市民福祉プラザ
〔テーマ〕 「さあ、ボランティアを続けてもらうための話をしよう」
〔講師〕 高口 貴子 氏 (原土井病院ボランティアコーディネーター)
今村 晃章 氏 (福岡県NPOボランティアセンター職員)
〔受講者数〕 34人

③ ボランティア活動情報の収集・提供

登録ボランティアグループや福祉施設、小規模作業所のボランティアニーズの実態調査を実施し、下記資料を作成してボランティア相談等で活用した。

(ア) 登録ボランティアグループの状況調査

「センター登録ボランティアグループ一覧」、「芸能ボランティア情報」

(イ) 施設・病院等ボランティアニーズ調査

「ボランティア体験受け入れ先情報」、「バザー用品等募集情報」、「施設ボランティア募集情報」

(ウ) ボランティア情報紙「風」の発行

個人登録者などへ、様々なボランティア活動の紹介や情報の提供を行った。

〔発行回数〕 6回 (平成23年4、6、8、10、12月、平成24年2月)

〔発行部数〕 2, 100～2, 300部/回

(エ) ホームページによる情報提供

ボランティア講座の案内、ボランティアグループの紹介、市・区ボランティアセンターの紹介などのボランティア情報を、ホームページをとおして提供した。

〔アクセス数〕 12, 580件

(2) ボランティアの育成、活動支援

(862千円)

多様な生活課題に応えるため、一定の知識や技術を必要とするボランティアを各種講座を通じて育成し、また、ボランティアグループの活動を支援した。

① 各種ボランティア養成講座の充実

i) 技術ボランティア養成講座

主に、視覚障がい者の方を対象とした技術を要する活動に参加するボランティアを養成するための講座を開催した。

(ア) 音訳(朗読)ボランティア養成講座

・初心者向け

〔期間〕 平成23年5月12日(木)～8月4日(木) (全13回)

〔会場〕 市民福祉プラザ

〔講師〕 佐々木 健介 氏 (元アナウンサー)

〔受講者数〕 22人

・追加講座

〔期間〕 平成23年11月17日(木)～平成24年3月29日(木) (全13回)

〔会場〕 市民福祉プラザ

〔講師〕 林 欣子 氏 (元アナウンサー)

〔受講者数〕 30人

※初心者向け及び追加講座受講者のうち9名は対面朗読サービスを、その他は音訳グループに加入し活動を始めている。

- ・フォローアップ講座（中堅者向け：すでに活動をされている方々向けの講座）

〔日 程〕 平成23年5月21日(土)、22日(日) (全2回)

〔会 場〕 市民福祉プラザ

〔講 師〕 林 欣子 氏 (元アナウンサー)

〔受講者数〕 8人

- (イ) 視覚障がい者ガイドボランティア養成講座

〔期 間〕 平成23年10月10日(月)～15日(土) (全3回)

〔会 場〕 市民福祉プラザ 他

〔講 師〕 宮崎 涼二 氏 (福岡市立心身障がい福祉センター)

〔受講者数〕 9人

※うち4名がガイドボランティアサークル「風車」に加入した。

- (ウ) 点訳ボランティア養成講座

〔期 間〕 平成23年8月30日(火)～12月13日(火) (全11回)

〔会 場〕 市民福祉プラザ

〔講 師〕 ボランティア連絡協議会視覚部門点訳5グループ

〔受講者数〕 22人

※うち12名が点訳グループに加入し活動している。

- ii) ボランティアリーダー研修会

ボランティアグループのリーダーや活動経験の長いボランティアを対象に、それぞれの活動をより活性化させるための研修会を行った。

〔日 程〕 平成24年2月17日(金)

〔会 場〕 市民福祉プラザ

〔テ ー マ〕 「自分も相手も大切に作るコミュニケーション術を学ぼう」

〔講 師〕 富岡 郁雄 氏 (NPO 法人日本ソーシャルコーチ協会 理事長)

〔受講者数〕 31人

- iii) シニアボランティア講座

シニア世代が培ってきた豊富な知識や経験を活かす機会としてのボランティア活動について、情報提供や活動体験などを行った。

〔期 間〕 平成24年2月2日(木)～23日(木) (全3回)

〔会 場〕 市民福祉プラザ

〔受講者数〕 15人

※講座修了後11名が既存のグループに加入し、病院での園芸や育児支援などの活動に参加している。

- iv) 課題別ボランティア養成講座 (再掲) (P. 3)

- v) ボランティア初心者研修会

ボランティアとは何か、基礎講座を開催し活動のきっかけづくりを行った。

〔実 施 日〕 平成23年9月16日(日)

〔会 場〕 市民福祉プラザ

〔受講者数〕 53人

② 「勤マルの日」 事業

誰でも気軽に参加できる拠点ボランティアと、企業などが独自に内容等を企画した自主活動をあわせて行う福岡独自のイベントとして、NPOふくおか及び福岡県経営者協会と共催して実施した。(※「勤マル」…「勤労者マルチライフ支援事業」の略で、勤労者の社会参加・ボランティア活動への参加を促進するための事業)

〔実施日〕 平成23年11月19日(土)、20日(日)

〔会場〕 福岡県内5箇所

(アイランドシティー、芦屋町柏原海岸、和白干潟、志賀島勝馬地区、原土井病院)

〔参加者数〕 86人(雨天の為、上記5箇所のみで実施)

(3) 登録ボランティアグループへの支援

(883千円)

〔助成〕

内容	件数	備考
グループ結成時支援資金	3	90,000円
保険料一部補助	7,937	793,700円
福岡市ボランティア連絡協議会	1	100,000円

〔貸出〕

内容	件数	備考
パソコンルーム等活動室	3,585	延べ 19,386人

(4) 災害ボランティア活動の推進

(162千円)

災害時ボランティアセンターとして十分に機能するため講座を実施したり、行政や市内の自主防災組織、防災士、NPO団体等と速やかに連携できるよう定期的に連絡会を行ったりするなど、体制づくりを行った。

① 災害ボランティア講座の開催

〔実施日〕 平成23年7月21日(木)

〔会場〕 市民福祉プラザ

〔内容〕 「災害!『命』を救う地域の力」をテーマに講話とパネルディスカッション

〔参加者数〕 178人

② 防災どんたくへ参加し災害ボランティア講座を開催

〔実施日〕 平成24年2月25日(土)

〔会場〕 市民福祉プラザ

〔内容〕 東日本大震災での現地及び福岡への避難者に対する支援活動をテーマに事例発表とパネルディスカッション

〔参加者数〕 40人

※ 防災どんたくとの協働

〔実施日〕 平成24年2月25日(土)～3月25日(日)

〔会場〕 福岡市役所西側ふれあい広場他5カ所

〔内容〕 地域防災活動の事例発表や講演会、避難生活体験事業などを実施

〔開催回数〕 6回

3 その人らしい暮らしを支えます

(1) 相談機能の充実・強化

(16, 148千円)

① 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業 (再掲) (P. 2)

② 心配ごと相談所事業

民生委員・児童委員、福岡県弁護士会及び行政書士の協力を得て、市民の日常生活上のさまざまな相談に応じ、適切な助言、援助を行うことでその人らしい暮らしを支える「心配ごと相談所」を次のとおり実施した。

また、あわせて福岡市からの受託事業として福祉相談事業 (高齢者に関する法律相談) を、「心配ごと相談所」において実施した。

i) 開設状況

[実施日時]

・心配ごと相談

一般相談：月曜日 10時から16時まで

専門相談：月曜日、金曜日 13時から16時まで

・高齢者に関する法律相談

水曜日 13時から16時まで

※相談日の1か月前から電話等による予約受付を実施。

[場 所] 市民福祉プラザ3階 相談室

[相 談 員] (1相談日につき)

民生委員・児童委員 2人、弁護士1人、行政書士1人

[開設日数]

・心配ごと相談 (一般相談、専門相談) 95日

・高齢者に関する法律相談 49日

[相談状況]

1日あたり5.7件 (うち高齢者に関する法律相談2.9件)

種 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合 計
	生 計 ・ 年 金	職 業 ・ 生 業	住 宅	家 族	結 婚 ・ 離 婚	医 療 ・ 保 健	人 権 ・ 法 律	財 産	事 故	福 祉	苦 情	そ の 他	
件 数	24 (4)	13 (7)	47 (13)	62 (15)	68 (7)	17 (2)	29 (10)	161 (46)	17 (9)	23 (8)	13 (2)	65 (20)	539 (143)

() は、高齢者に関する法律相談

[相談結果]

	相談所解決	民生委員紹介	他機関紹介	その他	計
件数	428 (117)	0 (0)	96 (25)	15 (1)	539 (143)

() は、高齢者に関する法律相談

ii) 「相談窓口のてびき」の作成（3～4年ごと）

本会をはじめ、関係機関で提供される福祉制度や福祉サービスなどを紹介するため、紹介冊子を作成した。また、「相談窓口のてびき」をホームページに掲載し、市民への相談窓口の情報提供を図った。

(2) 個別支援の強化・拡充

(106,093千円)

① 日常生活自立支援事業

認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が不十分な人の権利を擁護することを目的として、地域において自立した生活ができるように、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などの生活支援を行った。

i) 相談状況・契約件数

〔相談件数〕 577件

〔調査件数〕 309件

〔新規契約件数〕 152件（前年度からの相談も含む）

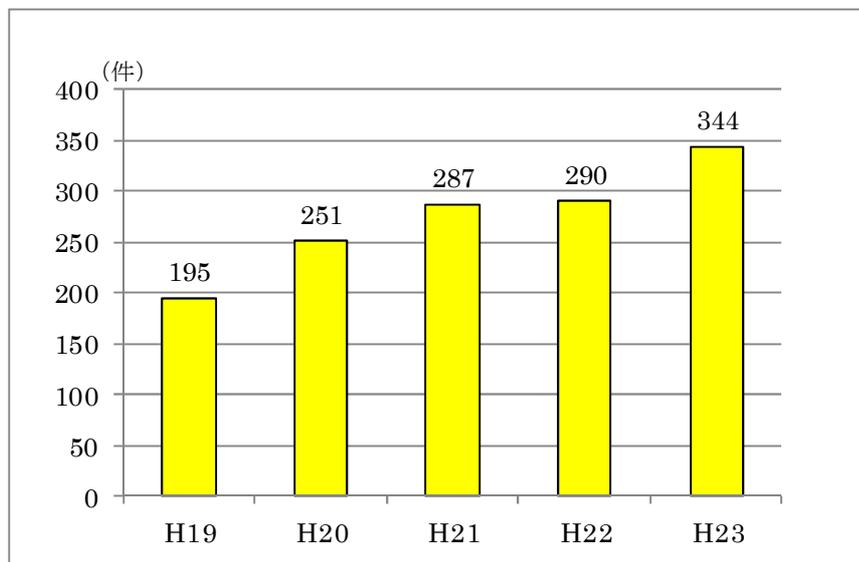
〔総契約件数〕 844件（平成12年1月～平成24年3月末）※解約累計500件

〔現在契約件数〕 344件（平成24年3月末現在）

〔利用者内訳〕

認知症高齢者	223件
知的障がい者	55件
精神障がい者	63件
その他	3件
合計	344件

〔年度末現在の契約件数の推移〕



ii) 登録サポーター（登録型生活支援員）制度の導入

一般公募により、福祉に対する熱意と関心の高い市民が、2日間の養成講座を受講し、利用者の特性や福祉制度への理解を深めたうえで、登録サポーターとして生活支援員の活動を行った。

〔実施状況〕

(平成24年3月末現在)

	日時	受講者数	登録者数	活動者数	活動回数	活動時間
第1回	7月27日(水)、8月1日(月)	23人	17人	1人	1回	2h
第2回	10月26日(水)、10月31日(月)	20人	13人	2人	10回	19.5h
合計		43人	30人	3人	11回	21.5h

② 高齢者賃貸住宅入居支援事業

民間賃貸住宅や都市再生機構（UR）に居住する高齢者が安心して在宅生活を送ることができるよう、定期的な見守りサービスや住宅退去時のサービス等に関する事業を実施した。

なお、新規契約申込みの受付は、平成22年度末をもって終了した。

〔現契約件数〕 72件（平成24年3月末現在）

③ 高齢者住宅相談支援事業

民間賃貸住宅を探している高齢者に対し、物件情報や生活支援サービスに関する情報を提供した。

〔相談件数〕 253件

〔物件紹介件数〕 424件

〔成約件数〕 23件

④ ずーっとあんしん安らか事業（再掲）（P. 4）

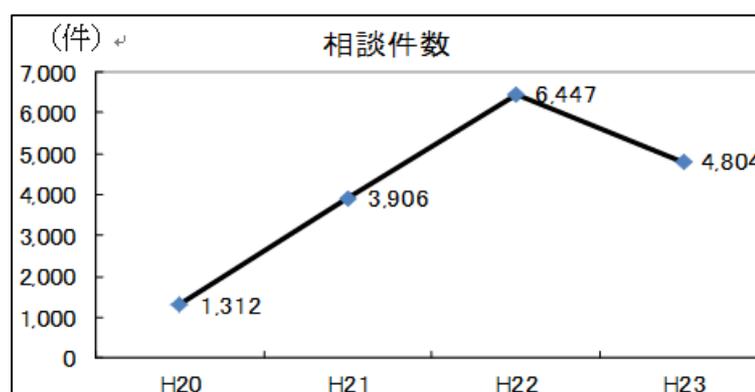
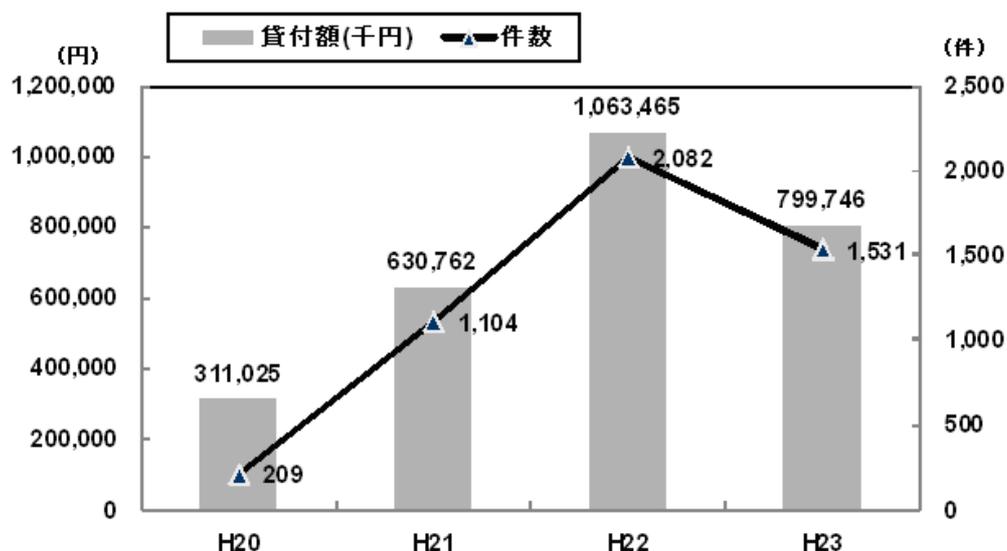
⑤ 低所得者への生活支援事業

低所得者、高齢者、障がい者等に対して、各種貸付事業を実施した。

(ア) 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等世帯単位を対象に、それぞれの世帯の状況や必要に合わせた資金の貸付けを行い、低所得者等の経済的自立と生活意欲の助長や在宅福祉、社会参加の促進を図った。

資金種類	貸付		償還(元金)
	件数	金額(円)	金額(円)
福祉資金	190	60,951,000	21,611,627
教育支援資金	450	346,121,000	84,877,648
緊急小口資金	273	25,845,000	13,838,026
総合支援資金	604	221,101,388	43,773,238
離職者支援資金	0	0	30,662,321
不動産担保型生活資金	6	86,769,900	0
要保護世帯向不動産担保型生活資金	8	58,958,300	4,360,000
計	1,531	799,746,588	199,122,860



(イ) 生活保護世帯等一時貸付事業

生活保護世帯や低所得世帯の緊急時の出費等に対する貸付事業を実施した。

種別	貸付		償還(元金)
	件数	金額(円)	金額(円)
生活保護世帯分	3,881	53,936,000	51,934,395
支援給付分	0	0	0
低所得世帯分	3	75,000	137,000
離職者緊急支援つなぎ分	0	0	23,000
合計	3,884	54,011,000	52,094,395

(ウ) 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)支援資金貸付事業(再掲)(P. 5)

⑥ ホームレス自立支援事業

i) 「福岡絆プロジェクト」への参画

ホームレスや若年生活保護世帯の人たちの支援をすすめる「福岡絆プロジェクト」に参画した。

また、BIG ISSUE FUKUOKAと連携を図りその校正や路上生活脱出ガイドの配付を行うなど路上生活脱出に向け支援した。

ii) 暖房用品（カイロ）の配布

歳末たすけあい募金の配分を受け、冬期の寒さをしのぐための暖房用品（カイロ）を支援団体と協力し、ホームレスの人たちに配布した。

〔配布数〕 630袋（1袋10個入り）

⑦ 家族介護者のつどい事業

家庭で寝たきり高齢者や認知症高齢者及び障がい者を介護している介護者を対象に、心身のリフレッシュを目的とした介護者同士の交流や意見交換、介護技術の習得、保健福祉サービスの紹介を行った。

区	実施形態	実施日	会場	介護者
東	介護者研修交流会	平成23年9月29日(木)	福岡市立馬出会館	5人
	バスハイク	平成23年10月28日(金)	脇田温泉「楠水閣」 (宮若市脇田)	13人
	情報交換会交流会	平成24年 2月24日(金)	東市民センター視聴覚室	10人
博多	バスハイク	平成23年11月29日(火)	鳴神温泉 ななのゆ (唐津市七山)	7人
中央	バスハイク (合同開催)	平成23年11月1日(火)	源泉野天風呂那珂川清流	4人
城南			(筑紫郡那珂川町)	3人
南	バスハイク	平成23年10月12日(水)	脇田温泉「楠水閣」 (宮若市脇田)	5人
	第1回交流会	平成23年 7月12日(火)	南市民センター視聴覚室	5人
	第2回交流会	平成24年 3月19日(月)	市民福祉プラザ	4人
早良	バスハイク (合同開催)	平成23年11月11日(金)	ホテル「ザ・ルイガンズ」	15人
西			(東区西戸崎)	9人
合 計				80人

⑧ 福祉用具リサイクル斡旋事業

不用となった福祉用具を「譲りたい人」と福祉用具が「必要な人」をコーディネートし、福祉用具のリサイクルを進めるとともに、福祉用具の普及と在宅介護の軽減を図った。また、提供状況から斡旋できる用具がなく、譲受希望者が早急に用具を必要としている場合には、福祉用具リサイクル業者などの情報提供に努めた。

〔登録件数〕

	車いす・電動車いす	電動ベッド	歩行支援用具	その他	計
提供希望者	30	22	6	19	77
譲受希望者	59	22	13	18	112
合 計					189

〔処理状況〕

成 立	取り下げ	調整中
98	69	6

⑨ リフトカー貸出事業

歩行が困難な高齢者、障がい者等の社会参加の機会拡大等のために、リフトカーの貸出を行なった。平成23年度から、貸出車両を1台増やしたことにより（1台→2台）、貸出件数も2.8倍増となった。

〔貸出件数〕 88件（延べ日数220日）

⑩ その他貸付事業

i) 臨時特例つなぎ資金貸付事業

解雇や派遣労働者の雇止め等により住居を喪失し、その後の生計維持が困難な離職者が公的給付制度等（失業等給付、住宅手当等）を申請し、その交付を受けるまでの当面の生活費を貸付けるため、平成21年10月より生活福祉資金とは別に「臨時特例つなぎ資金」貸付制度が創設された。

貸付		償還(元金)
40件	3,960,000円	2,325,500円

ii) 障がい者高齢者住宅整備資金貸付事業の実施

平成22年度末をもって貸付事業は終了した。(償還のみ)

貸付		償還(元金)
0件	0円	3,115,150円

(3) 団体・施設等を通しての支援

(131,928千円)

① 福祉バス事業

老人クラブ、障がい児・者団体及び母子福祉団体の福祉活動を支援するための福祉バスの申し込み受付、バス会社への配車予約等を実施し、延べ36,287人の利用実績があった。

〔福祉バス利用状況〕

高齢者団体	心身障がい者団体	児童・母子福祉団体	その他	合計
653台	239台	14台	129台	1,035台

② 歳末たすけあい運動募金配分事業

歳末たすけあい運動募金の配分を受け、福祉作業所等の利用者や交通遺児、里親委託児童に対し、見舞金の贈呈を行った。また、校区社協、子育て支援団体や障がい児者支援団体、社会的課題支援団体が歳末時期に実施する事業の事業費を助成した。

	対象者・団体	件数
見舞金贈呈事業	福祉作業所等利用者	642件
	交通遺児	49件
	里親委託児童	65件
助成事業	校区社協	150件
	子育て支援団体	217件
	障がい児者支援団体	75件
	社会的課題支援団体	3件

③ 社会福祉施設等支援事業

(ア) 社会福祉事業従事者研修

民間社会福祉施設従事者を対象とした5種の研修と社会福祉関係団体職員を対象とした2種の研修を実施し、福祉に関する知識や技術、組織の中での役割などについての理解を深めた。

研修対象	研修事業名	研修日数 (日)	受講者数 (人)
民間社会福祉 施設従事者	新任職員研修	2	55
	中堅職員研修	2	47
	指導的職員研修	2	38
	救急法研修 (2回実施)	2	88
	福祉レクリエーション研修 (2回実施)	2	122
社会福祉関係 団体職員	人権研修	1	34
	接遇研修	1	68
合計		12	452

(イ) 民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済事業

民間社会福祉施設等の職員の福利厚生の充実を目的に、加入職員のニーズにあわせた事業の企画・実施に努めた。

(事業の詳細については、別表1 (P. 35) のとおり。)

(平成24年3月末現在)

加入契約法人数	施設数	加入職員数
128	154	3,911

(ウ) 民間保育施設整備資金貸付事業

民間が経営する保育施設の建物の修理、増改築及び備品等の整備に必要な資金の貸付事業を実施した。

貸付		償還(元金)
0件	0円	6,860,312円

(エ) 施設整備利子補助事業

社会福祉事業の振興を図るため、福祉医療機構から借り入れた資金の利子支払いに対して補助金を交付した。

〔対象〕 93法人・98施設・102件

〔補助金額〕 69,476,357円

(オ) 更生保護施設助成事業

更生保護の推進を目的とした活動に対して、補助金を交付した。

〔対象〕 3団体

〔補助金額〕 1,830,000円

(カ) 児童福祉施設球技大会 (福岡市・福岡市社会福祉協議会 主催)

〔実施日〕 平成23年6月19日(日)

〔会 場〕 千代中学校、博多体育館

〔競技種目及び出場チーム〕 野球の部 3チーム

バレーボールの部 3チーム

4 福祉の心を育みます

(1) 福祉学習の推進

(1, 355千円)

学校、地域、市民や企業に対し、福祉についての学習の機会や教材等を提供し、理解と関心を高め、福祉活動への参加の動機付けを図った。

① 福祉学習教材の提供

(ア) 「わたしもあなたもボランティア」

〔配布先〕 市内の中学校1年生及びその担当教師

〔配布数〕 10,000部

※学校への配布だけでなく、企業の社員研修にも利用した。

(イ) 福祉体験学習マニュアル「福岡市の福祉教育お役立ちBook」

〔配布先〕 市内の小中学校

〔作成数〕 270部

② 出前福祉講座

学校、企業などに出向き、障がい者疑似体験、高齢者疑似体験などを行い、福祉やボランティア活動の理解を深めた。

〔件 数〕 53件

〔対 象〕 公民館、学校、企業、地域団体等

③ ボランティア体験事業

中高生を対象に、施設等での高齢者や障がい者との交流を通じて福祉やボランティア活動への関心を高めるための、社会体験の場を提供した。

区	実施日	場 所	回数	参加者数
東	3月23、25、28、29、30日	松島公民館他	5	11
博多	3月24日	さんさんプラザ	1	6
南	7月21、24、26、27日 8月1、4、5、9日	老健施設「湯乃里ま とば」他	8	23
城南	7月26、28、29日 8月1、2、4日	城南子どもプラザ他	7	25
早良	8月2、3日	早良市民センター他	2	7
西	7月28日 8月1、2、3、5日	西障がい者フレンド ホーム他	5	15
合計			28	87

④ 福祉学習教材の貸し出し

貸出品	件数	延べ貸出数
車いす(在宅利用含む)	239	966
アイマスク	32	517
高齢者疑似体験	63	343
点字器	20	544
共用品・白杖	32	226

⑤ 企業の社会貢献（CSR）セミナー

〔実施日〕 平成23年9月16日

〔会場〕 市民福祉プラザ

〔講師〕 伊藤 仟佐子 氏（仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台 館長）

〔受講者数〕 29人

（2）福祉啓発・情報提供機能の充実

（3,517千円）

① ホームページや広報紙を通じた情報発信

i) 広報紙「ふくしのまち福岡」の発行

福祉やボランティアに関する情報及び本会の活動や事業を広く市民に紹介し、福祉に対する意識を高めるため、広報紙を年2回発行・配布した。

〔発行回数〕 2回

〔発行部数〕 17,000部/回

ii) ホームページの運営

市民に本会事業を広く周知するため、ホームページにより最新情報の発信を行った。

〔アクセス数〕 68,503件

② 福祉のまちづくり推進大会

市民や福祉関係者を対象に、福祉功労者の表彰や福祉活動の紹介、記念講演の実施を通じて、市民一人ひとりの福祉についての関心を高めるきっかけづくりを行った。

〔実施日〕 平成23年11月2日(水)

〔会場〕 福岡市民会館

〔参加者数〕 1,800人

〔記念講演〕 「災害に負けない地域づくり」

講師：栗田 暢之 氏

（特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事）

③ 福祉啓発イベント

i) ハートフルフェスタ福岡2011

市民の人権問題についての理解を深めるために、ボランティアの協力を得て福祉体験コーナーを設け、車イス体験などを行った。

〔実施日〕 平成23年10月16日(日)

〔会場〕 福岡市役所西広場

〔内容〕 車イス体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験ほか

〔参加者数〕 117人

ii) 「NHKクリスマスコンサート：朗読と音楽の夕べ」

視覚や聴覚に障がいのある人にも楽しめる朗読とコンサートを開催した。

(主催／NHK福岡放送局、共催／福岡市ボランティア連絡協議会、
福岡市社会福祉協議会)

〔実施日〕平成23年12月18日(日)

〔会場〕アクロス福岡イベントホール

〔参加者数〕300人

④ 出前ボランティアセンター事業(再掲)(P.4)

⑤ 対面朗読サービス

視覚障がい者などが情報を得る方法の一つとして、福祉図書・情報室にて「対面朗読サービス」を提供した。

〔実績〕287件

⑥ 在宅視覚障がい者サービス事業等

登録ボランティアグループが視覚障がい者等の依頼に応じて、下記の情報を提供した。

i) 点字図書

385タイトルを作成し提供した。そのうち140タイトルを「サピエ」(視覚障がい者に対して、デイジーデータをはじめ暮らしに密着した地域・生活情報などを提供する全国ネットワーク)に登録し、全国の視覚障がい者へ提供した。

ii) 録音図書

791タイトルを作成し提供した。

⑦ 障がい者週間(12月3日～9日)記念の集い

福岡市が主催する「障がい者週間記念の集い」事業に参加し、障がい者関係団体とともに障がい者の社会参加と福祉向上のための啓発活動を行った。

〔実施日〕平成23年12月4日(日)

〔会場〕市民福祉プラザ ふくふくホール

〔基調講演〕東日本大震災被災地から「伝えたい思い」

講師：阿部 一彦 氏 ((財) 仙台市障害者福祉協会会長)

〔シンポジウム〕「いざという時の自助・共助・公助」

〔ステージ〕各福祉団体等

〔映画〕「武士の家計簿」(日本語字幕・副音声付き)

5 市民福祉プラザ事業を推進します

市民福祉プラザの指定管理者として、市民が安心して利用できるよう管理運営を行うとともに、入居団体等と連携して研修及び啓発事業、相談事業等を実施し、市民の福祉への理解や福祉活動への参加を支援した。

(1) 福祉活動拠点機能の充実

(186,930千円)

① 貸室運営

市民福祉プラザの各種施設を福祉関係団体や障がい者、高齢者等の市民が十分活用できるように管理運営を行った。障がい者団体、高齢者団体を対象にFAXによる予約を8月から開始し、利便性の向上を図った。

また、サービス向上と利用者の満足度を高めるためアンケート調査を実施し、備品や案内板の整備など意見を運営に反映させた。

〔施設全体の利用延人員〕 312,051人 (前年度比94.4%)

(各施設の利用状況は別表2 (P.37) のとおり。)

② 障がい者作品展

障がい者週間にあわせて福祉団体・施設から寄せられた絵画や写真、書などを展示し、障がい者福祉の啓発に努めた。

〔実施日〕 平成23年12月4日(日)～27日(火)

〔会場〕 市民福祉プラザエントランスホール、レストラン内 他

〔参加数〕 5施設・団体 42作品

③ 福祉映画鑑賞会の開催

市民の福祉意識やボランティア意識の高揚を図ることを目的に、障がい者も一緒に鑑賞できる副音声や字幕入りの福祉映画鑑賞会を開催した。なお、第2回目は福岡市主催「障がい者週間記念の集い」と連携して行った。

《第1回》「あぜみちジャンピンッ！」

〔実施日〕 平成23年11月23日(水・祝)

〔会場〕 市民福祉プラザ ふくふくホール

〔入場者数〕 67人

《第2回》「武士の家計簿」

〔実施日〕 平成23年12月4日(日)

〔会場〕 市民福祉 ふくふくプラザホール

〔入場者数〕 212人

④ プラザ利用団体、地域団体等との懇談会

入居団体やプラザ利用団体と、施設運営に関する意見交換をそれぞれ実施し、改善等を行った。また、地域団体等と懇談会等を通して地域とプラザ共通の問題等について協議するとともに、地域情報とプラザ情報を共有化し、地域との交流を図った。

(ア) プラザ入居団体連絡会 (年6回)

(イ) 視覚障がい者団体やボランティア団体等との懇談会 (年2回)

(ウ) 福祉施設との懇談会 (年1回)

(エ) 当仁校区自治協議会連絡会への参加 (年10回)

⑤ ふくふくプラザ写真展の開催

写真を趣味としてプラザを利用している高齢者団体や障がい者団体を対象に、生きがい活動の支援と利用団体相互の交流を図ることを目的に、写真展を開催した。

〔実施日〕 第1回 平成24年2月22日(水)～3月6日(火)

第2回 平成24年3月22日(木)～4月4日(水)

〔会場〕 市民福祉プラザエントランスホール

〔参加数〕 8団体 98作品

⑥ 「NHK福岡ハートパーク」絵画展の開催

NHK福岡放送局が11月に大濠公園等で実施した「NHK福岡ハートパーク」の2次利用として、障がいのある方が描いた絵画をプラザ1階エントランスホールに展示し、福祉啓発を図った。

〔実施日〕 平成24年1月5日(木)～31日(火)

〔会場〕 市民福祉プラザエントランスホール

〔展示数〕 60作品

(2) 市民向けの福祉講座の開催

(275千円)

① 市民福祉講演会

平成22年度から続けているテーマの「孤立死」と平成23年3月11日に発生した東日本大震災で再度脚光を浴びた「災害ボランティア活動」並びに高齢化社会に向けての支援を据えた講演会を市民向けに実施し、福祉の啓発と福祉事業への理解を図った。

・第1回市民福祉講演会

実施日	平成23年5月11日(水)
会場	市民福祉プラザ ふくふくホール
内容	「『孤独死ゼロ作戦』から学ぶ～地域福祉のあり方～」をテーマに講話
講師	中沢 卓実 氏(千葉県松戸市常盤平団地自治会会長)
参加者数	247人

・第2回市民福祉講演会

実施日	平成23年7月21日(木)
会場	市民福祉プラザ ふくふくホール
内容	「災害!『命』を救う地域の力」をテーマに講話とパネルディスカッション
講師	熊谷 高信 氏(西区壱岐南校区自治協議会副会長) 上野 洋光 氏(西日本新聞社編集局報道センター記者) 森田 浩章 氏(福岡市消防局西消防署警備課職員) 村野 淳子 氏(大分県社会福祉協議会職員)
参加者数	183人

・第3回市民福祉講演会

実施日	平成23年11月18日(金)
会場	市民福祉プラザ 601会議室
内容	「よくわかる相続・遺言と成年後見制度」をテーマに講話
講師	岩城 和代 氏 (岩城法律事務所弁護士)
参加者数	144人

② 施設見学受入

市民福祉プラザ施設見学を受け入れ、ユニバーサルデザインなどへの理解と施設の利用を促した。

〔見学回数〕 71回

〔見学延日数〕 65日

〔見学者数〕 1,901人

(3) 情報提供と相談事業の充実

(26,527千円)

① 福祉図書・情報室の運営

〔蔵書数〕 (平成24年3月末現在)

図書	ビデオ・DVD
28,928冊	1,162本

〔利用状況〕

利用者数	貸出数		新規登録者数	レファレンス数
	図書	ビデオ・DVD		
37,419人	11,307冊	914本	545人	1,114件

〔ホームページアクセス数〕 47,763件

〔「プラザだより」発行実績〕

紙	音訳版	点訳版
毎月 4,500部 A4版4ページ	毎月 23本	毎月 12部

〔「図書案内」発行実績〕 隔月 4,500部/回

② プラザ相談窓口 相談研修会の開催

〔開催日〕 平成24年1月19日(木)

〔会場〕 市民福祉プラザ 501研修室

〔参加者数〕 48人

〔内容〕 講話「～気持ちに寄り添う～「3つの聴き方」」

〔講師〕 富岡 郁雄 氏 (NPO法人日本ソーシャルコーチ協会 理事長)

6 市・区社協の基盤を強化します

(1) 事業推進体制の強化

限られた資源・人材を効率的に投下するため、区社協にて実施していた業務を市社協に統合するなどの業務の見直しを行ったほか、多様化・複雑化する福祉課題に柔軟かつ適切に対応していくために必要となる職員の資質向上やその支援体制の整備に向けた準備検討を行った。

(2) 職員の資質の向上と人材育成

(1, 143千円)

① 職員研修体系の再構築

職員の資質向上を体系的に行い、充実した職員研修を実施するため、職員研修体系を見直し、整備した。

② 資格取得への支援

職員の専門性を高めるため、国家資格等の取得を行う際の受験手数料等の助成を行い、資格取得を奨励した。

〔助成実績〕

資格名	受験手数料	登録免許税 登録手数料	(参考) 正規職員の資格取得率
社会福祉士	1件	5件	約39%
精神保健福祉士	1件	0件	約6%
介護支援専門員	1件	0件	約48%

③ 相談援助技術の向上

職員の地域福祉活動推進業務等における相談援助技術向上のため、専門研修を行った。

	日程	内容
第1回	平成23年9月12日(月) 16日(金)	地域福祉の援助技術について 個別支援事例、地域支援事例の検討 〔講師〕 福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授 村山 浩一郎 氏
第2回	平成24年1月16日(月) 20日(金)	「地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業」 活動報告、演習 〔アドバイザー〕 福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授 村山 浩一郎 氏
第3回	平成24年3月8日(木) 9日(金)	ファシリテーション技術 〔講師〕 (株)アーバンデザインコンサルタント 取締役 十時 裕 氏

(3) 財源の確保

(150千円)

福岡市ボランティア活動振興基金の管理運営を行うとともに、ホームページのバナー広告など自主財源の確保に努めた。

① ボランティア活動振興基金の造成

ボランティア活動振興のために設置した基金に寄付等を積み立て、ボランティア活動を推進するための財源確保に努めた。

内 訳	件数	金 額
奉仕銀行ボランティア特定寄付金	0件	0円
福岡市ボランティア活動振興基金補助金	—	150,000円
合 計		150,000円

〔平成23年度末基金額〕 650,981,505円

② その他の財源の確保

内 訳	件数	金 額
会費（正会費・賛助会費）	65	317,000円
ホームページバナー広告	2	120,000円
車いす等貸出料	67	125,700円
外部講師謝礼	16	329,160円
実習生受入謝礼	1	10,000円
使用済み切手売却益	—	335,975円
合 計	137	1,237,835円

(4) 収益事業の実施（収益事業特別会計）

7 その他の事業

(1) 補助事業（ふれあい入浴事業等）

(6,210千円)

高齢者の健康増進や交流を目的とする「ふれあい入浴事業」の活動を支援するため、市内の公衆浴場に対し福岡市の補助金を財源として事業費の助成を行った。

〔助成額〕 6,210,000円

〔助成箇所数〕 17戸

(2) 福岡市社会福祉協議会顕彰

社会福祉増進のため意欲的に活動を続け、その功績が顕著な個人、団体に対し「福岡市福祉のまちづくり推進大会」にて表彰を行った。

- ・福岡市社会福祉協議会会長表彰 139人・59団体
- ・福岡市社会福祉協議会会長感謝状 282人・18団体

(3) 「第54回大都市社会福祉施設協議会（北九州市大会）」への参加

(83千円)

政令指定都市の各種別の社会福祉施設の代表者が一堂に会し、大都市の施設が抱える問題等を研究・協議する会議について、参加の呼びかけや提出する議題のとりまとめを行うとともに、各施設の参加者とともに総会・研究会・交流会に出席した。

〔本市参加者〕 施設関係者 16人、社協 1人

(4) 戦災引揚死没者追悼式 (870千円)

昭和20年6月19日の大空襲による戦災死没者及び海外からの引揚げの途中に死没された方々の冥福を祈るとともに、恒久平和の誓いを新たにすため、地域団体とともに、追悼式を実施した。

〔実施日〕 平成23年6月19日(日)
〔会場〕 福岡市戦災記念碑(博多区冷泉公園内)
〔参加者数〕 217人(うち遺族62人)

(5) 老人の日関連事業

高齢者に対する敬愛の念を示すとともに、「老人の日」を記念して、百歳を迎える高齢者に祝状と記念品を、米寿を迎える高齢者に祝状を福岡市とともに贈呈した。

〔贈呈者数〕

百歳	米寿	合計
244人	3,943人	4,187人

(6) 介護サービス評価事業 (819千円)

介護サービスの質の向上と利用者の介護サービス事業所選びを支援するため、地域密着型サービス外部評価事業(認知症高齢者グループホーム及び小規模多機能型居宅介護事業所)を実施した。

なお、地域密着型サービス外部評価事業は、平成23年5月末をもって終了した。

① 介護サービス評価事業

(申込みの受付は平成22年度末をもって終了)

ホームページによる情報提供(平成24年3月末現在)

〔情報提供事業所数〕 30件
〔アクセス数〕 37,916件

② 地域密着型サービス外部評価事業

〔実施状況〕

(平成24年3月末現在)

サービス種別		申込件数	調査済件数	評価確定件数	公開済件数
認知症高齢者 グループホーム	1～3ユニット	0	2	5	5
	4ユニット以上	0	0	0	0
小規模多機能型居宅介護事業所		0	0	5	5
合計		0	2	10	10

③ 個別訪問相談支援事業(福岡市介護保険事業者研修)

「介護サービス評価事業」のノウハウを活用し、介護サービス事業所への助言等を行うことを目的として、元調査員を事業所に派遣した。

〔派遣件数〕 19件

(7) 福祉サービス苦情解決

福祉サービス利用者の苦情や意見を幅広く汲み取り、サービス内容をより充実するため苦情解決に取り組んだ。

8 会務の運営

(1) 理事会の開催

実施日	出席者数	審議事項等
第165回 平成23年5月24日(火)	15人	〈審議事項〉 平成22年度事業報告 平成22年度一般会計決算 平成22年度収益事業特別会計決算 定款施行細則の一部改正について 評議員の委嘱について
第166回 平成23年7月25日(月)	16人	〈審議事項〉 評議員の委嘱について
第167回 平成23年8月30日(火)	19人	〈審議事項〉 評議員の委嘱について
第168回 平成24年3月29日(木)	17人	〈審議事項〉 平成23年度一般会計資金収支補正予算案 平成24年度事業計画案 平成24年度一般会計資金収支予算案 平成24年度収益事業特別会計資金収支予算案 定款の一部変更案 事務局の組織及び事務分掌規程の一部改正案 職員就業規則の一部改正案 第4期地域福祉活動計画案 職員の給与に関する規則の一部改正案 評議員の選任について

(2) 評議員会の開催

実施日	出席者数	審議事項等
第162回 平成23年5月24日(火)	40人	〈審議事項〉 平成22年度事業報告 平成22年度一般会計決算 平成22年度収益事業特別会計決算 理事の選任について
第163回 平成23年7月25日(月)	45人	〈審議事項〉 理事の選任について
第164回 平成23年8月30日(火)	60人	〈審議事項〉 理事の選任について 監事の選任について 会長の選任について 副会長の選任について

<p>第165回 平成24年3月29日(木)</p>	<p>48人</p>	<p>〈審議事項〉 平成23年度一般会計資金収支補正予算案 平成24年度事業計画案 平成24年度一般会計資金収支予算案 平成24年度収益事業特別会計資金収支予算案 定款の一部変更案 第4期地域福祉活動計画案</p>
--------------------------------	------------	---

(3) 監査の実施

実施日	出席者数	監査事項等
平成23年5月13日(金)	3人	業務執行の状況及び財産の状況を監査

【別表1】

〔福岡市民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済制度事業実施状況〕

(1) 給付事業

内 容		決 算 額	
種 別	単価 (円)	件数	金 額 (円)
結婚祝金	30,000	154	4,620,000
出産祝金	30,000	121	3,630,000
入学祝金	30,000	125	3,750,000
義務教育修了祝金	30,000	72	2,160,000
死亡見舞金		47	1,384,000
本人	100,000	1	100,000
被扶養者	70,000	2	140,000
その他	26,000	44	1,144,000
傷病見舞金	40,000	10	400,000
災害見舞金		2	60,000
全焼 (壊)	100,000	0	0
半焼 (壊)	70,000	0	0
その他	30,000	2	60,000
特別結婚祝金	30,000	23	690,000
小 計		554	16,694,000
退会一時金	支給率で算出	698	69,506,710
合 計		1,252	86,200,710

(2) 貸付事業

内 容		決 算 額	
種 別	貸付限度額 (円)	件数	金 額 (円)
生活資金		14	2,370,000
5年未満	120,000	2	220,000
5年以上	150,000	5	750,000
10年以上	200,000	7	1,400,000
慶弔資金	250,000	0	0
医療資金	250,000	2	500,000
入学資金		0	0
高 校	250,000	0	0
大 学	500,000	0	0
罹災資金	500,000	0	0
合 計		16	2,870,000

(3) 長期加入職員記念品贈呈事業

区 分		決 算 額 (円)	
加入期間	記念品額 (円)	件数	金 額
5年	5,000	241	1,205,000
10年	10,000	100	1,000,000
15年	10,000	69	690,000
20年	15,000	27	405,000
25年	15,000	12	180,000
30年	20,000	16	320,000
35年	20,000	0	0
送 料			61,950
合 計		465	3,861,950

(4) 保 養 所 事 業

内 容		決 算 額 (円)	
区 分	補助額 (円)	件数	金 額
大 人	2,500	122	305,000
小 人	1,200	11	13,200
合 計		133	318,200

(5) 文 化 体 育 事 業

内 容		決 算 額 (円)	
区 分	補助額 (円) 等	件数	金 額
文化鑑賞引換券補助	3,000	4,079	9,553,500
映画鑑賞補助	費用の一部	7,685	2,094,240
観劇補助	費用の約1/3	118	1,338,000
プロ野球観戦補助	費用の約1/3	402	936,302
Jリーグ観戦補助	費用の約1/3	48	72,000
海浜プール利用補助	費用の一部	657	383,870
スポーツクラブ利用補助	費用の一部	8	267,100
合 計		12,997	14,645,012

(6) 健 康 づ く り 事 業

内 容	決 算 額 (円)	
	区分	金 額
メンタルヘルス相談事業 (電話相談)	委託料	472,500
メンタルヘルス研修 (2回)	講師謝礼	78,000
合 計		550,500

【別表2】

〔福岡市市民福祉プラザ 利用状況〕

区		分	利用状況	
貸 出 施 設	ふくふくホール	利用日数	249 日	
		利用者数	40,240 人	
	会議室（3室）	利用日数	997 日	
		利用者数	38,256 人	
	研修室（7室）	利用日数	2,225 日	
		利用者数	95,558 人	
	和室・実習室（7室）	利用日数	1,708 日	
		利用者数	46,502 人	
	交流ひろば	利用日数	251 日	
		利用者数	7,437 人	
	計	利用日数	5,430 日	
		利用者数	227,993 人	
	そ の 他 の 施 設	福祉用具展示場	利用者数	25,352 人
		視察・施設見学	団体数	71 団体
利用者数			1,901 人	
ボランティアルーム等		利用件数	3,585 件	
		利用者数	19,386 人	
福祉図書・情報室		開室日数	341 日	
		利用者数	37,419 人	
		登録者数	545 人	
		貸出冊・本数	12,221 冊	
		対面朗読	287 人	
計	利用者数	84,058 人		
利用者総数			312,051 人	
開館日数			347 日	
1日平均利用者数			899 人	